

日本聖公会 神戸教区報

神のおとずれ

2012年
6月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者
司祭 芳我 秀一

印刷所
文明堂印刷所

思い切った変革が必要

主教 ヨハネ 古本 純一郎

退職者の私たちにも本誌への応援をお願いしたいと言うことで、紙上ではありますが、8年ぶりに教区の皆さまにご挨拶が出来る機会が与えられたと感謝しています。内容は自由ということですので、最近の聖公会の教会の現状について、日頃私が思っていることなどを、思い出すままに申



古本純一郎 主教

教会の危機的な現実

隠遁の生活をしている者にとつて、管区、教区、教会の動静は、送られてくる文書や、主日礼拝に通っている最寄りの教会を通して垣間見る程度で、正確な知識ではありませんが、現在の聖公会はあらゆる面で非常に危機的な現実を身置いていると感じます。多分、このことは聖公会の聖職・信徒の誰もが感じていることだと思います。

聖職と聖職志願者の激減、牧師の定住していない教会、

管理教会の増加と、信徒の高齢化、年金生活信徒の増加、核家族化による家族信徒、若年信徒の減少は深刻のようです。

「宣べ伝える人がいなければ、どうして聞くことが出来るよう。遣わされないで、どうして宣べ伝えることができるか。」(ロマ10・14・15)とあるように、伝道の第1線に立ち、教会の船頭を務める聖職・教役者が不足、不在では、現状を辛うじて維持できたとしても、外に向けての教会の宣教活動がどうして可能でしょうか。

思い切った変革を

戦後、高齢聖職者問題や、聖職志願者の続出、米国聖公会の財政的援助によって誕生した「聖職者70歳定年制」は、聖職が不足し、年金制度の存続さえ難しくなっている今、見直す時期が来て居る筈です。自活する信徒伝道者の真剣

な育成にもっと本腰をいれなくてはならないでしょう。聖公会やローマ・カトリック教会は、従来信徒の牧会に力を注いで、家を中心とした家族制度の上に教勢を伸ばし維持してきました。しかし、

戦後の家族制度の崩壊や少子化、信仰は個人の自由で、子や配偶者に信仰を強要すべきではないという考えから、家族信徒が急速に減少し始め、家族で信徒は自分一人という数が増えています。教会は家族信徒を増やす手立てをもちと真剣に考えて見る必要があるようです。私の両親は昔、

信徒同士の結婚のお世話をしていた京都教区の婦人補助会の働きによって結ばれました。教会や婦人会は、信徒同士の結婚問題をもっと真剣に取り組んではどうでしょうか。

信徒が減少し、高齢化して、教会、教区の財政は徐々に逼迫している現状では、教会は信徒によって支えられ自給するという従来の制度では限界で、思い切った教会の整理、統合と教役者の人事異動は勿論、自らも働き、教会の自立に、信徒と共に汗を流す教役者の在り方を真剣に考えることも必要でしょう。

牧会型から伝道型に

教会の姿勢も、今こそ内向きの牧会型から、外向きの伝道型へと、大きく転換することが求められています。信徒を中心とした美しい伝統的な礼拝に固執するのではなく、未信徒に向けた外向きの、福音の喜びに溢れた礼拝、宣教活動にもっと軸足を向ける努力が必要だと思います。

牧師の説教、信徒の奨励、証しに今一つ寂しさを覚えます。また聞きですが、教界では有名な福音伝道者が、自らの調査、体験から、聖公会の礼拝説教の寂しさを指摘されたと聞きました。

信徒への説教は出来るが、未信徒への伝道説教が出来ないのでは困るのです。牧師の皆さんの奮起と、今後の神学校教育に大きく期待したいと思います。字数の制限が来ましたのでペンを書きます。皆様の教会の堅実な成長を祈っています。

(神戸教区退職主教)



フィリピンワークキャンプに参加して

八代 良寛

2月24日(金)～3月5日(月)、九州教区主催によるフィリピン・ワークキャンプが開催されました。

今回、そのキャンプに参加した動機は、私は海外へ行ったことがなく、日本の健康、食糧、教育、労働条件、住宅、衣料、社会保障などの生活水準の豊かな国で暮らしていて、日本の環境しか知らず、途上国のそれはどうなっているのだろうかという興味があり、自分の目で見て肌で感じる良い機会だと思いい、参加さ

せていただきました。私の人生の中で、フィリピンワークキャンプはとても大きな出来事の一つになりました。

フィリピンでの滞在で知ったことは、ものがありがたみです。日本ではあたり前である電気、水、食べ物、今回行ったサントアイネスでは、水は豊かにあるものの電気、食べ物は満足にありわけではない、また、自分たちで畑を耕し、野菜を育て、家畜を飼い、それを食すということに、その大きさを心から感じる事ができました。



サントアイネスの人々

また、食べ物や、お風呂代わりに川で体を洗ったり、洗濯をしたりと、フィリピンの生活のすべてが、新鮮で経験したことのないことばかりでした。私が、初めて行く海外で不安の中、サントアイネスの方々は、私たち日本人の世話をしてくれたり、笑顔で手を振ってくれたり、とても親切な方が多かったです。また、印象的だったのは、現地の子どもの澄んだ瞳ときれいな笑顔です。言葉がうまく通じなくても、一緒に遊んだり、おしゃべりや毎晩ダンスをしたりと子供たちの笑っている表情を見ると、それだけで私も笑顔に

なりました。今でもその表情が目に浮かびます。

フィリピンワークキャンプで学んだこと、自分が見たこと感じたことを、家族や友人に伝えることの必要があると思います。今回のワークキャンプは、私自身学ぶことが多く、現地の人からすると、役に立たなかったかもしれないませんが、私がフィリピンに行き、少しでも多くの人々が笑顔になってくれたら嬉しく思います。

また、これから聖公会、神戸教区とフィリピン聖公会、サントアイネスの人々との関わりが豊かになって行くことを願っています。

笑顔の絶えない幸せな時間がありました。ありがとうございます。

(神戸聖ミカエル教会信徒)

青年交流会 in 呉

トマス 山本 風太

4月29日(日)～30日(月)、呉信愛教会で青年交流会を行い、青年7名が参加しました。

今回の交流会は、呉信愛教会で30日に開催されたバザー奉仕が主なプログラムでした。前日は林和広司祭が準備してくださった焼き鳥の準備や、会場設営をしました。

信愛教会でバザーが開催され



呉信愛教会に集まったメンバー

るのは、約10年振りということ、私自身、自然と気持ちも高まりました。

当日は天気が悪く、予定していた模擬店の配置を急きょ変更することになりましたが、このとき青年たちが手伝ってくれたおかげで、定刻通りにバザーを開始することができました。

また当日には、広島復活教会の青年・中学生が手伝いに来てくれ、多くの若者たちがそれぞれの役割を担って働いてくれました。

バザー奉仕に努めてくださった青年・中学生の皆さん、本当にありがとうございました。私も、各教会で開催されるバザーに積極的に参加していきたいと思えます。また、青年会としても自分たちができることを探し取り組んでいきます。

(呉信愛教会信徒)

キャンプサーバー・トレーニングキャンプ (CTC) 報告

テモテ 遠藤 洋介

5月3日(木)～4日(金)に神戸聖ミカエル教会でCTCが行われました。今年は14人の青年の参加があり、一日目のプログラムで、講師として長田吉史司祭と上松裕明さんを迎え、救護法、キャンプサーバー(CS)の心得などを学び、今夏に開催される第49回神戸教区中学生大会に向けての講話をして頂きました。

二日目には、今年の大会のテーマである『笑顔』についてのディスカッションをしました。ディスカッションの中では、中学生とは違った青年らしい観点から様々な意見が飛び交い、内容のある有意義な時間を共有しました。

このCTCに参加したことで、今夏に行われる中学生大会に向けて、大変充実した二日間となりました。

(明石聖マリアマクダレン教会信徒)



東日本大震災関連情報

小名浜聖テモテ・ボランティアアセンター 活動報告

司祭・ペテロ 中原 康貴



4月22日(日)聖餐式(中原司祭の礼拝奉仕)

神戸・大阪・京都の三教区が協働して行っている小名浜聖テモテ・ボランティアセンター、四月は神戸教区が担当となり、大東正人教区主事、林和広司祭、與賀田光嗣司祭、長田吉史司祭、中原康貴司祭、小林尚明司祭が現地調整者を務めました。



いわき市北方の立入禁止区域

また、その他にも神戸教区をはじめ、各地の信徒の方々もボランティアとして参加しました。ボランティアの内容に関しては、すでに報告されていますように、二つの仮設住宅で週二回ずつ行われている『ほっこりカ

フェ』を開くことが主とした務めで、その他はその時々のご機嫌によって変わります。また、カフェも現地の方々がお手伝いしてくださるので、私たちはその下準備として、機材や材料の運搬や調達、そして案内のビラの作成と配布を行い、後は現地の方々に教えてもらいながら、いっしょに進めていきます。

ボランティアセンターの京阪神三教区による協働は六月末をもって終了し、その後は常駐者を置いて、現地の方々を中心とした活動に移行します。どうぞ、それまでにご都合のつく方は、「見る」ということも、お互いにとって大切なことだと思いますので、是非、ボランティアに参加してみてください。

昨年九月に徳島伝道区信徒研修会で、わずかな時間ですが、意見を出し合いました。その後二月に、教会で第一回目の宣教協議会を行いました。ワークシートの一部を使用して、二組に別れて行いました。自分達の教会の現状を把握することから初め、教会が地域でどのような存在であるか、何ができるか、などをテーマに様々な意見が出されました。

まずは、宣教について、自由に話し合う機会を作ることを目指しました。初めて教会に来た時のことなど、普段はあまり話さないことも聞くことができました。また教会はもっと心から満たされ、喜びを感じる所であればならない、活き活きとしたものが感じられない、バザー以外にも企画をたてて近隣のコミュニケーションが取れるようにするといった意見も出されました。

集会については、未信徒や青年でも参加しやすい趣味のサークルのようなものや、聖歌の練習を行ってはどうか、また災害時に備えて、地域と連携して、避難訓練や炊き出しなどを行っているという意見があった。

第二回は四月に、前回の意見をふまえて、テーマを「礼拝」「集会」「広報」の三つについて、七名程度の三グループに別れて行いました。礼拝については、初めて来られた方がまた来ようと感じられるように、信徒も配慮する必要があります、家族と一緒に出席する、教父母の重要性、日曜学校、幼稚園との合同礼拝などが話し合われました。

今後、宣教協議会という名称はわかりやすく親しみのあるものに変更したいと思いますが、内容だけでなく、行うこと自体に意義があると思えました。(徳島インマヌエル教会信徒)

宣教協議会・徳島インマヌエル教会

アンナ 谷 睦 子

松蔭女子学院 創立120周年記念

ケンブリッジ大学 セント・ジョンズ・カレッジ聖歌隊 コンサート 2012

入場料：一般 2,000円
2012年7月25日(水) 開場17:00 開演17:30

会場：神戸松蔭女子学院大学チャペル
主催：神戸松蔭女子学院大学・神戸コンサート実行委員会
後援：英国領事館、日本聖公会神戸教区、日本聖公会大阪教区
お問合せ：日本聖公会神戸教区事務所 TEL078-351-5469

アの実現するための方法についても、検討して生きたいと思います。少しづつ慣れてきて、自分の意見を自由に話せるようになってきたようですし、教会の宣教について各自の意識も高くなってきています。

鳩だより 《敬称略》

祝 受 洗

4月8日(日)

ミカエル 坂井 充仁
神戸聖ミカエル教会

アウグスティヌス

エステル 岡山 彩子
神戸昇天教会

ヨハネ

クララ 干飯 涼香
松浦 孝司
神戸聖ヨハネ教会

ノア

モーセ 坂牛 結絆
姫路顕栄教会

ペテロ 中原 綾真
徳島インマヌエル教会

祝 堅 信

4月8日(日)

ミカエル 坂井 充仁
サムエル 佐本 陸

ガブリエル 高月 怜子

ヨハネ 北中 淳紀
ローレンス 宮城 波旺人
神戸聖ミカエル教会

ご 聖 婚

4月29日(日)

サムエル 岡田 泰典
エステル 岡山 彩子
神戸昇天教会会

教 籍 移 動

4月1日(日)

ヨハネ 瀬山 匠
徳島インマヌエル教会より
高松聖ヤコブ教会へ

ご 逝 去

3月25日(日)

ヤコブ 中村 征央(73歳)
高松聖ヤコブ教会

4月15日(日)

ペテロ 松浦 香(82歳)
広島復活教会

4月16日(月)

ガラシャ 下島 清美(92歳)
神戸聖ミカエル教会

4月22日(日)

フランシス 山田 俊之(52歳)
岡山聖オーガスチン教会

4月23日(月)

ペテロ 松酒 泰三(83歳)
岡山聖オーガスチン教会

4月24日(火)

オーガスチン 松井 清(88歳)
姫路顕栄教会

神戸伝道区

◎4月9日(月)から、金根祥

主教を始め、大韓聖公会ソウル教区一行が教区会館に宿泊10日(火)に神戸伝道区教役者と市内で夕食を共にし、歓迎と親睦の一時を持った。

徳島伝道区

◎富岡キリスト教会

4月15日(日)、トマス入交源治司祭の逝去1周年を憶え、記念聖餐式を行った。礼拝後、ご家族の方と会食を共にした。18名参加。

新刊紹介

特祷想望

『日本聖公会祈禱書』
特祷、解説と黙想

聖公会出版 3800円＋税
著者 司祭 ヨハネ吉田雅人
(ウィリアムス神学館館長・神戸教区籍)

書籍紹介

主教 フランシス 森 紀旦

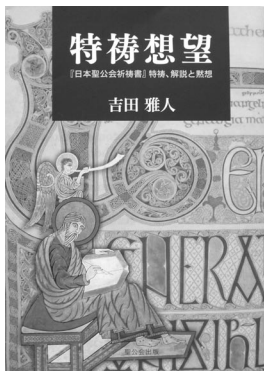
主日の聖餐式の中で司祭がその日の「特祷」を唱え、皆さんが「アーメン」と同意されます。その時「特祷」を心から味わっておささげしておられるでしょうか。本日に失礼ながら、あまり気にも留めず、特祷文を目で追うだけの場合が多いのではないのでしょうか。

一六世紀、ローマ中心の教会を批判し、離反した英国の教会は、聖公会という教会として長い歴史を刻んできました。その間、信徒・聖職者の信仰を養い育てるいろいろな大切なものが出現しました。「聖公会の霊性」スピリチュアリティ」ということですね。その一つで極めて重要な役割を担ったのが実は「特祷」なのです。

この程、大変ためになるすばらしい特祷についての本が、神戸教区所属でウィリアムス神学館館長の吉田雅人司祭により執筆、出版されました。ぜひお読みいただきたい、と心から推薦いたします。聖公会新聞に長い期間にわたり連載され、それを一冊にまとめたものです。

本書は、祈禱書中の主日・祝日の各特祷につき教会暦に従いその歴史を述べ、文言を主に聖書の言葉によってわかりやすく説明し、黙想し、さらに勧めをしています。海外聖公会ではしばしば出されてきましたが、このような詳しいものは日本聖公会では初めてでしょう。その意味で画期的な出版です。礼拝学上大切な用語・項目なども諸所で説明がなされており、便利です。土曜日に、本書により翌日の特祷の意味を学び、それを祈つて、礼拝に出席してみたいかがでしょう。

心からお薦めいたします。



特祷想望

『日本聖公会祈禱書』特祷、解説と黙想

吉田 雅人